

2012年 8月4日・「毎日新聞」では

震災、津波、原発「命が危ない」

再稼働批判する「海の音」 きょう藤沢で詩の朗読会

福島第1原発事故を経験しながら原発を再稼働させた政府を批判している市民グループの朗読の会「海の音」（富樫則子代表）が4日、藤沢市本町の市労働会館ホールで詩の朗読会「命が危ない」を開く。東日本大震災と津波、原発事故を詠んだ詩36篇を朗読し、災害の恐ろしさや命の大切さを訴える。

朗読する詩は、いじめや自殺、大震災など命を巡る現代の矛盾に心を痛める全国の詩人311人の作品を収めた「命が危ない—いま共にふみだすために」（コールサック社刊）を中心に、大震災や津波、原発事故に関わる作品を選んだ。

血を流し

涙を流し

さけぶ町並み

何一つ

クギの一本も

さわる事もなく

町はなくなった

母さん

父さん

家が水にしずんで行

家が見えなくなる

からだの

ふるえがとまらない

にげろー

水 くっつお！

早く 早く！

（東梅洋子さん「うねり」）

演出・音響は、劇団民芸が担当。朗読中に穏やかな波音と襲いかかる津波の大音響が対照的な効果音として入り、フルートやケーナの生演奏も加わる。

汚染した土地 海 ひと サカナ

幾百年ひよっとして幾千年

営々と住み続け 耕してきた土地が

森が 歴史が 牧舎が

放射能を浴び 泣いている

怒っている

かすかに聞こえてくる

憤怒の声は

まだ生まれていない

ひとたち からです
(石川逸子さん「こえ」)

富樫代表は「福島惨状に懲りず活断層が通っているかもしれない大飯原発を動かすなんて市民感覚では考えられない。日本、地球が危ないことを訴えたい」と語る。(永尾洋史)

と紹介されています。